

<ワークショップの結果について>

部会員

- ・このワークショップで各テーマ毎に出された将来像、将来展望などを総合計画策定のなかで、どのように活用されるのか教えて頂きたい。また、ワークショップの過程で出てきた課題、将来展望をもう一度検討していくことはないのか。ワークショップの結果はただのまとめであって、これを土台にどうしていくのか、という次の作業が必要だと思う。
- ・市街地の活性化など、第三次の計画からずっと言われ続けて、それでも解決していない施策に対して、お題目を考えるのではなく、どこに問題があったのかを追及し、実際に変えていく方法を具体的に検討していくべきだ。

部会員

- ・ワークショップで言い忘れたが、都市の美観・住みやすさ・清潔感のために絶対、下水道整備が必要だと思う。長野市は整備率が 50%を超えていると思うが、100%にするべきである。これから工程表を作るのであれば、絶対にそれをやるんだという強い意識で進めていくべきだ。下水道整備は住民負担もかなり必要なので、自分の地区には必要無いという市民の意見も多いと思うが、敢えて説得をして 100%完備の下水道都市を目指してほしい。
- ・伊勢市は伊勢神宮もあり、土地規制が大変厳しく、市街地の再開発や土地利用もむずかしいが、新しい市長はあえて規制を乗り越えたまちづくりビジョンを打ち出している。長野市でもそうした土地規制が都市整備の障害になっていると感じるが、そういうものを乗り越えた長期計画を目指してほしい。

事務局

- ・議事（1）で説明したのは、あくまでワークショップの結果であり、次の議事（2）でワークショップの要素を取り入れて作成した、基本構想 施策の大綱骨子のたたき台を本日、皆様にお示しして、議論していただきます。
- ・ワークショップでは、観光、産業・商業、都市景観、住環境（都市基盤）、安全安心のまちづくりなど他の部会に拘わる意見も多数出てきましたが、現段階では、第三次総合計画の現体系の中で作業を進めていますので、そういった意見は各部会に含ませていただきます。

<基本構想 施策の大綱骨子のたたき台について>

（1 人々が集う魅力的なまちづくりの推進）

部会員

- ・言葉、言い回しについては、各部会で統一した方が良い。例えば、「ひとづくり」「地域づくり」という言葉に対して、事務局で探れるのであれば、定義してほしい。また、漢字文書の中に出てくるカタカナの「コンパクト」「ユニバーサルデザイン」について

も、議論する時には言葉の注釈、定議を付けた方が良い。

- ・内容については、都市計画課でも都市マスタープラン策定の作業を進めているところだが、比べて違和感はない。

事務局

- ・現在、各部会で作業を進めていますが、まだ使っている言葉がまちまちであり、注釈も本来必要な部分が抜けていますが、これから計画づくりを進めていく中で、各部会との調整を図りながら、言葉の意味合いや注釈について、徐々に付け加えていきたいと考えています。

部会員

- ・「拠点地域を中心としたコンパクトで活力があるまちづくり」の拠点地域とはどのようなスケールで考えればいいのか。

事務局

- ・拠点地域とは、コンパクトシティ構想の中で、まだ、どの地区というものではありませんが、徒歩圏内に日常生活に必要な機能（医療、福祉、教育など）が利用できる歩いて暮らせる日常生活圏であり、都市部周辺の既存の公共交通ネットワーク等がある利便性が高い市街地に拠点される地域です。

部会員

- ・全体的にもう少し論理性を持たさないと言葉の羅列になってしまう。例えば、中項目に「人々が集う魅力的なまちづくり」とあるが、魅力というのは、方向性の「歩いて楽しめる」「活力がある」「人にやさしい」という論理性を指すのか、もっと違うものを指すのか、少し分かりにくい。

事務局

- ・今後、そういった繋がりを説明できるよう、もう少し論理性のあるものに修正していきたい。現段階ではワークショップから出てきた要素を積み上げて作成したもので、ご了承いただきたい。

部会員

- ・中項目にある「人々が集う魅力的なまちづくり」や「人々が行き交うみちづくり」というのは、どこの市町村でも掲げていることであって、この中に長野らしさ、長野ブランドというものを言葉として置き換えていく必要がある。
- ・魅力的でないまちに住もうと思う人はいないわけで、もっと長野市としての方向性を明確に打ち出していくべきである。

部会員

- ・ワークショップの中で安全・安心という言葉が多く出てきたが、それをどう表現していくかという事をお願いしたい。
- ・「歩いて楽しめるまち」と「コンパクトで活力があるまち」というのが、同じ事を言っているように聞こえてしまうので、違いを明確にした方が良い。

事務局

- ・ご意見としてお聞きしておきます。

部会長

- ・「ユニバーサルデザイン」と「人にやさしい」は同じような意味の繰り返しになるので、「人にやさしい」は要らないんじゃないか。

事務局

- ・タイトルを含めて、まだ、骨子のたたき台ですので、皆さんから意見をいただき、修正していきたい。

(2 人々が行き交うみちづくりの推進)

部会員

- ・1で「歩いて楽しめるまちづくり」とあるのに、2では「歩いて」という言葉が出てこない。歩くためにみちづくりが必要であり、1と重なるが、ここでも入れた方がよい。

事務局

- ・歩く視点ということで、歩道整備などが挙げられると思うが、現在の総合計画の枠で交通安全の部分は第三章に含まれており、第三章が先程の「安全・安心のまちづくり」の関係章になっている。第六章に道路網整備が含まれているが、今後、他の章との連携を図っていきたい。

部会員

- ・なぜ、高度情報通信サービスがみちづくりの推進に入っているのか、違和感を感じる。3の交流に入れるか、タイトルを変えても良いのではないか。

事務局

- ・情報通信基盤の整備が高度情報通信サービスのみちづくりと捉えて、みちづくりの部分に入れています。

部会員

- ・誰もが高度情報通信サービスを享受できるとは、どういうことか。

事務局

- ・国が2010年に目指しているユビキタス社会の中で、いつでも、どこでも、誰でも簡単に様々な情報を享受できる社会があり、それには長野市においては環境基盤整備が必要である。中心市街地の場合、民間でも進めることができるが、中山間地域においては、公共的な整備が必要であるということから、幹路という形でここで掲げているものです。

部会員

- ・これからユビキタスの時代を目指すというのは、国が掲げていることであり、当然それでいいと思うが、それを行政が積極的に進めるということは、手形を先に切ってしまうという話なので、別の表現方法があるのではないか。

(3 ふれあい交流するひとづくりの推進)

部会員

- ・第三次総合計画で国際交流を取り入れたのは、オリンピック開催都市という部分からの考え方だと理解しているが、この時代において何故、国際交流を市の総合計画の中

に入れる必要があるのか、ということ問い直す必要がある。

- ・例えば、長野にいる外国留学生の方の優秀な知識を活用した国際交流がこれから必要ではないか。子供達の国際教育ももちろん必要だが、せっかく長野市にいる様々な国の在住外国人の方達の活用法を考えるべきである。

(まちづくりの方向性、施策の視点について)

部会員

- ・施策の視点で「市民、事業者及び行政が一体」とあるが、NPOなどの関係諸団体(アソシエーション)も加えてほしい。

部会員

- ・この中にも長野らしさを出すために、固有名詞を入れてほしい(長野市、松代、善光寺など)。章のはじめに、長野にはこういう魅力がある、という部分を出した方が良い。

部会員

- ・まちづくりの方向性で平仮名のまちを使っているが、街という漢字を使う場合もある。平仮名のまちづくりを使っていくのであれば、「まちづくり」とは、という定義がほしい。

部会員

- ・全体のトーンの話だが、基本的な考え方に時代認識が欠けていると思う。長野市を将来こういうまちにするんだ、という意気込みをもっと示していかないと、前の総合計画とあまりトーンが変わらない気がする。市民へのインパクトに欠けるのではないか。

部会員

- ・まちづくりの方向性の社会構造の転換という説明の中にエコや Co2 の抑制、環境に配慮したとする現在、長野市が向かおうとしている考え方を示した方が良いと思う。

事務局

- ・長野市の将来像などは、基本構想のまちづくりの目標で示していきたい。本日、骨子案で示したが、今後、文章化していく上で、形容詞を取り入れて肉付けしたもので議論していただきたいと考えています。

部会員

- ・全体の提案ですが、本日議論されたやさしさ、コンパクト、環境、バリアフリーというなかで、長野らしさ、長野ブランドというものがこれから大事になってくると思う。そこで、「長野」を平仮名で「ながの」と表したらどうか。表記は漢字の「長野」が良いが、何かで表す部分を「ながの」とすれば、長野らしさのイメージに繋がるのではないか。これは個人的な提案です。

<土地利用構想>

部会長

- ・土地利用の状況で、平成12年から現在まで、どこがどう変わったのかを示してほしい。それによって、国土利用計画の理念に沿った形で現状があるのか、そうではないのかが多岐出せて、方向性がはっきりするのでは。

事務局

- ・土地利用区分の現況面積については、総合計画で平成9、10年現在の面積等を掲載しているが、それと第四次総合計画で作っていくものが対比できるものを今後、示したい。

部会員

- ・農地の維持・保全という言葉がよく出てくるが、実際、それが可能かどうかなのか、農家の方に直接聞くことが必要だと思う。イオンなどの大型店の話でも賛否両論である。

事務局

- ・総合計画の策定と並行して、農政課で農業振興地域整備計画を策定しているが、そうした部会の中で、農家の方の意見を聞いていくという計画があります。そのような他の部局との計画づくり、また方向性と整合性を図っていきたい。

部会員

- ・(2)田園・山村地域のA 田園居住地域の中で「農地の有効利用の促進」とあるが、農地を農地として有効利用するという意味だと思うので、農地を農業用地として、という意味合いでよいか。

事務局

- ・はい、結構です。

専門部会員

- ・いち部会の意見で簡単に決められることではない。今、いろんな部局で議論している部分である。基本構想の構成はよその部会に出すことはできるのか。第六部会の中だけで議論しても無理な部分が出てくると思う。

事務局

- ・他の部会の福祉、環境、防災、教育、産業と骨子案がまとまった所で、全体をきちんと示していかなければいけないと考えている。また、審議会で協議されたものは、他の部局にも出すことができると思う。

部会員

- ・土地利用にしても、先程のユビキタスにしても、議論の方向として、ハード面の整備よりソフトの面でどうしていけばいいかという側面を重視した方がいいのではないかと。統一的なハード面より、こういう点はソフト面で、ということをもっときめ細かく盛り込んだ方がいい。

< 構想の実現に向けて（協働によるまちづくり、総合的・計画的な行政）>

部会員

- ・一言でいうと小さな地方政府を目指すということか。
- ・効率的な住民サービスというのは、市の負担を少なくして、人件費や市の負債、地方債を減らしていくことを目的にしているのか、住民サービスは水準を下げずに工夫によって維持していくことで、人件費や市の負債を減らしながら、地方政府を目指していくということなのか。

事務局

- ・長野市としては人件費を必要最小限に抑えることで、少数精鋭による定数管理という考え方があります。
- ・起債などについては、効率的な財政運営によって返済を進めていくという意味合いです。公平な税負担や、保健や手数料など公平な負担をいただいて、少ない財源の中で最大の市民サービスをしていくという、全てを含めた効率的という考え方です。

部会員

- ・わかりました。そういった考え方を文書に盛り込んだ方がいいと思う。

酒井部会員

- ・市民と行政のパートナーシップにある「自主的なまちづくり」や「市民と行政の協働」が、どのようなイメージで使っている言葉なのか がわかる注釈をつけてほしい。人によって捉え方が違ってくると思う。

全体の意見

部会員

- ・今回のように事前に会議資料を配布される場合、事務局の説明はもう少し省略し、重要なポイントを補足する程度で、話し合いの時間を長く取るべきだ。時間が無くて意見を控えてしまうことになるのでは。

事務局

- ・検討させていただきます。